



寄って 話して 自ら気づく

「親のカ」をまなびあう学習プログラム

くらべないで！

～同じ子どもなんて一人もない～



イラスト：うじな かずひこ

まだまだ幼いと思っていた子どもは、成長とともに、様々な経験をするようになります。だんだんと親（大人）の側から離れていく子どもたちの姿に寂しさを感じることもありますが、子どもの伸びようとしている芽をみつけて、しかり伸ばしてあげましょう。

また、家庭が、子どもの心安らぐ居場所になっているかどうかをもう一度見つめ直してみましょう。

考えましょう

小学3年生のミキちゃんは
算数が苦手です。
今日は、学校で算数のテストが
ありました。
ミキちゃんは、頑張って
苦手な算数のテストで
60点を取りました。
家に帰ったミキちゃんは
お母さんにテストを
見せています。。。。。



- ① このとき、あなただったら、ミキちゃんにどんな言葉をかけますか。
吹き出しに、セリフを入れてみましょう。

考えましょう、出し合いましょう

あなたは、学力のほかに、きょうだいや他の子と比べて、自分の子のどんなところが気になりますか。

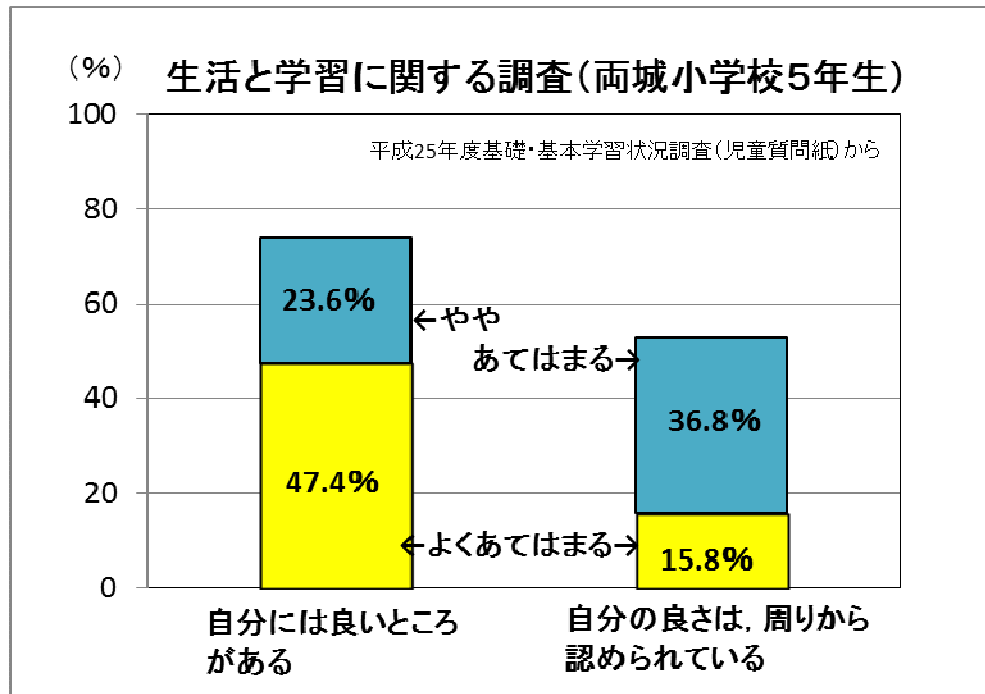
または、今の子どもと自分が同じ年齢だった頃と比べて気になることがありますか。

学力のほかにも…



.....ということもありそうです。

両城小学校 5 年生は？



『私と小鳥と鈴と』金子みすゞ

私が両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、地面(じべた)を速くは走れない。
私が体をゆすっても、きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。

出典：『金子みすゞ童謡全集』（JULA 出版局）

講座を振り返りましょう

今日の学習を通して、自分の中で、分かったこと、考えが変わったこと、感じたことなどを書いてみましょう。